

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	1	学 校 名	静岡県立下田高等学校（全）	校 長 名	山崎 文則
------	---	-------	---------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

賀茂地域における高校教育の伝統的拠点校として、知・徳・体の人間教育と地域連携による課題解決型学習を通して、将来の日本や地域を支え、導いていく人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
～下高生3つの力～ (1) 自己決定力：広い知識と思考力を身に付け、自ら決定できる力 (2) 自走力：主体的に判断し、積極的に行動できる力 (3) 人間力：至誠（誠実性・公平性） 雄飛（国際性・創造性） 献身（協調性・社会性）	(1) 柔軟な選択科目と工夫された授業による、多様な進路実現 (2) 探究活動による、実践的・主体的な学び (3) 学習にも部活動にも積極的に取り組む文武両道	(1) 高い志を持ち、向上心を持って真摯に学習に取り組む生徒 (2) 部活動、生徒会活動、学校行事などに積極的に取り組む生徒 (3) 社会に貢献する意欲を持ち、次世代のリーダーを目指す生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア すべてのに優先する安心安全な学校づくり

- (ア) 事故、トラブルのない学校づくり
- (イ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上

イ グローカルで活躍できる人材の育成

- (ア) 個々の進路希望にあった丁寧な進路指導
- (イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践

ウ 主体的、能動的に学ぶ力の育成

- (ア) 自ら考え、実行できる生徒の育成
- (イ) 社会で活躍できる人間力の育成
- (ウ) 自己肯定感の涵養

エ 学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推進

- (ア) 失敗や改革を恐れない積極的な組織の確立
- (イ) 実効性のある教職員研修の推進
- (ウ) 特別支援教育・人権教育の推進と心理的安全性に配慮した授業実践

オ 学校魅力化・活性化のための開かれた学校

- (ア) 積極的な地域との連携
- (イ) 積極的な広報活動の推進
- (ウ) ICTを活用した学校間連携の研究

カ 学校の働き方改革の推進

- (ア) 学校行事の意義の確認と精選
- (イ) 業務の効率化と協力体制の強化
- (ウ) 教職員のワークライフバランスの推進

様式第 1 号

キ 信頼される学校づくりの推進

- (ア) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上
(イ) 事案に応じた計画的な準備と経費の適正執行

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	すべてに優先する安心 安全な学校づくり	(ア) 事故、トラブルのない 学校づくり	生徒データ等を含む情報データにおいて、情報漏洩等のトラブル防止に加えて、利便性の高い情報システムの構築を行う。 (情報データ漏洩等トラブル ^{ゼロ} 0)	教務
			安全に関する教育（ネットワーク犯罪、薬物、盗難等）の徹底・薬物講座、防犯教室を年 1 回実施。学校生活アンケートを各学期 1 回実施。	生徒
			学期ごとの環境整備活動の円滑な実施と、生徒の心身強化のサポートを相談室の活動等を通じて行い、安心して学校生活が送れる環境づくりを行う。	保健
		(イ) 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上	防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率 70% を目標とする。 また、1 年生、2 年生はふじのくにジュニア防災士知識行動コースを取得する。	総務
イ	グローバルで活躍できる人材の育成	(ア) 個々の進路希望にあった丁寧な進路指導	【3 年間を見通したキャリア教育の実践】 進路シラバス、進路ストーリーを提示し、生徒が 3 年間を見通した進路学習に取り組めるよう支援をする。	進路
			理数科生徒の各種研修や実験教室による、グローバルで活躍するための進路明確化支援。生徒の満足度 5 段階評価で平均 4.0 以上。	理数科
			生徒が海外で研修する機会を 3 件以上提供する。年度末の、NY 研修に向けて 10 回以上の事前研修を行う。	国際交流委員会
		(イ) 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	主体的な学びに有効な ICT 機器の整備と、研修等を通してそれを多くの教員が有効に活用できる。（年度に 1 回は ICT 活用のための研修を実施。）	教務
ウ	主体的、能動的に学ぶ力の育成	(ア) 自ら考え、実行できる生徒の育成	【社会に貢献できる「将来の生き方」を考える】 「夢講座」「トークフォークダンス」など外部人材の協力を得ながら、将来と社会との関わりを考える。また「総探推進室」「地域連携室」と連	進路

様式第 1 号

			携を取り、教科横断的な学び、校外での学びを積極的に推奨する。	
			2 年生文系特進クラスにおいて、特進クラスの特徴となるプログラムを年 3 回以上実施する。	2 年部
			理数探究の充実による自ら考え、実行できる生徒の育成。生徒の満足度 5 段階評価で平均 4.0 以上。	理数科
		(イ) 社会で活躍できる人間力の育成	総合的な探究の時間を通して、探究の知識、技能を身につけるとともに、よりよい自己と社会を実現しようとする態度を養った生徒が 8 割以上。	総探推進室
		(ウ) 自己肯定感の涵養	生徒の状況を把握し、生徒の成長を褒めるよう心がけた教員 70% 以上。 減点法式から加点方式への転換を進めた教員 50% 以上。 特別活動、部活動の充実を図る。	全職員
エ	学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推進	(ア) 失敗や改革を恐れない積極的な組織の確立	学校運営や業務の在り方について、必要に応じて改善のために提案・提言しようとしている教職員が 85% 以上。	あり方委員会
		(イ) 実効性のある教職員研修の推進	学力向上、授業力向上のための提案を 1 回以上行う。それを目標とした研修会等を 1 回以上行う。	教務
			【「下高生 3 つの力」を身につけ、多様な進路希望に応じた進路実現を目指す】 「高校生のための学びの基礎診断」「希望模試」「講習」を実施し、確かな学力を身につける支援をする。 「下高進路ストーリー」を軸に、生徒が主体的に進路目標を立て行動をする支援をする。	進路
		(ウ) 特別支援教育・人権教育の推進と心理的安全性に配慮した授業実践	人権教育全体計画、年間指導計画に従い社会の多様性を理解するこころの豊かな生徒を育てる。コンプライアンス研修を踏まえ、学校内での人権に関わる諸事案の情報を共有し、全職員の人権意識が向上する。校内研修計画に沿い、特別支援教育等についての知識理解を深め、多様な生徒に対し適切な対応をとるための資質向上がなされる。	教務
オ	学校魅力化・活性化のための開かれた学校	(ア) 積極的な地域との連携	地域連携を通じて、生徒の未見の可能性を耕し、学びに向かう力の向上を図るとともに、校外での学びを学校内での学びと有機的につなげる。年間 10 事業以上の実施と毎学期の共有。	地域連携推進室

様式第 1 号

		(イ) 積極的な広報活動の推進	ホームページや学校案内、Instagram を活用して学校の行事イベント・魅力を発信する。	広報戦略室
		(ウ) ICTを活用した学校間連携の推進	賀茂地区グランドデザインの具現化に向けて、拠点校配信授業の研究を進める。(年度内の進学補講、教養講座、探究学習等での遠隔授業の実践)	「行きたい学校づくり」推進事業
カ	学校の働き方改革の推進	(ア) 学校行事の意義の確認と精選	体育的行事、文化的行事の意義を見直し、スリム化を図る。 今日の教育施策や社会環境の変化、生徒や保護者のニーズを踏まえた行事の検討を進める。	あり方委員会
		(イ) 業務の効率化と協力体制の強化	共有ファイルを用いて、各担当が業務の反省や改善点等を記録することで、業務を精選し、次年度への引継ぎが潤滑に行われる。	教務
			(学校全体として) 組織的な運営や業務遂行ができていると回答する教職員が 80%以上。	あり方委員会
		(ウ) 教職員のワークライフバランスの推進	タイムマネジメントを意識して業務を進め、年次休暇及び特別休暇を積極的に取得した教職員 70%以上。 研修日に定時退勤ができた教職員 80%以上。	全職員
			時間外勤務の縮減または業務の効率化や改善を図った教職員 70%以上。	全職員
キ	信頼される学校づくりの推進	(ア) コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	定期的(月 1 回)なコンプライアンス研修の確実な実施 教職員の不祥事発生件数と交通事故発生件数を 0 件にする。	管理職
		(イ) 事案に応じた計画的な準備と経費の適正執行	・業務改善提案実践 3 件以上。 ・内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス 0 件。 ・複数年の課題解消 1 件以上。	事務

(記入上の留意点)

具体的な成果項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。また、可能な限り数値目標を示すこと。